

『退職手当債』って、何だろう？



ところで、職員の退職手当に充てるため、退職手当債【財政用語解説⑥】

を借りるそうだけど、後の返済でわれわれ市民へのサービスは減ったりしないだろうね。



退職手当債は、団塊の世代が大量に退職することに対応するため、国が平成18年度から勸奨退職分に加えて定年退職分に充てることも認められたんだ。

その返済の財源は、発行年度の人件費削減による効果額とされて、後年度に毎年発生するこの効果額で、その年の市債の元利金

財政用語解説

⑤ 財政調整基金

地方公共団体において、年度間の財源の不均衡を調整するために積み立てられた貯金。

⑥ 退職手当債

戦後の第一次ベビーブームで生まれた『団塊の世代』の大量退職などに伴う退職手当の大幅な増加に対処するため、定員・人件費適正化計画を定め、総人件費の削減に取り組む団体に対し発行が認められる市債です。

を支払うことになっている。

要するに、職員の人員数の削減によって減った人件費の範囲内で返しなさいという仕組みで、人員削減をしない場合は、借りられないことになっているんだよ。



市民サービスが低下しないように、上手に行政改革をしてくれよ！

『財政健全化に向けた取り組み』って何だろう？



広報のぼりべつ8月号の財政公表を読ませてもらったよ。平成19年度は一般会計も特別会計も赤字で安心したよ。計画どおり、平成20年度への繰越金も見通しの3億5千万円以上確保できたようだね。

去年は、Uターンを決めた矢先に、道内のまちが財政破綻し、登別市だって、『中期財政見通し（平成19年度～平成22年度）』の収支見込みで、累積収支不足額は28億2千万円と試算していただろう、ほんとに心配したんだ。



ちよっと、待ってくれよ。このまま何も対策を講じなければ、という前提で『28億円の収支不足』が生じることなんだけれど…。



確かに、そう書いてあった。でも、最後まで読んでいない市民もいるよ

うだね。

『28億円の収支不足』だけがひとり歩きして、後半部分の『財政健全化に向けた取り組み』を知らないまま心配している市民もいると思うよ。



実際、妻や両親なんか、とても心配しているんだ。

誤解のないように、財政公表のたびに、『財政健全化に向けた取り組み』を行っていきつつ説明しているんだけれどね…。



28億2千万円のうち平成19年度収支不足は約3億1千500万円だったよね。どうやって、これを解消したの。具体的に教えてよ。

中期財政見通し（平成19年度～平成22年度）の収支見込み

(単位：百万円)

年度	歳入	歳出	歳入歳出差引
平成19年度	19,173	19,488	▲315
平成20年度	17,943	18,818	▲875
平成21年度	17,771	18,498	▲727
平成22年度	17,854	18,758	▲904
収支不足額累計			▲2,821



中期財政見通しには、『財政健全化に向けた取り組み』として、4つの項目に分けて計画期間の財政効果見込額が記載してあるだろう。この項目を柱にして具体的な取り組みを盛り込んであるんだ。

財政健全化に向けた取り組み

- 行政経費の縮減
- 財政効果見込み 7・3億円程度
- 事務事業の見直し
- 財政効果見込み 1・7億円程度
- 歳入の確保
- 財政効果見込み 4・6億円程度
- 基金の計画的運用と適切な活用
- 財政効果見込み 14・6億円程度



この財政効果額を合わせるとうちよほど28億2千万円になる。つまり、この取り組みで、収支見通しで見込まれた収支不足額を解消しようという計画だね。



平成19年度は、この年度分として試算された収支不足の約3億1千500万円を最低限度として、できるだけこれを上回る効果額が出るように努めたんだ。

平成19年度の財政健全化に向けた取り組みと効果をまとめたのが、『表1』（6ページ）だよ。